

論文番号 65

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Assessment methods for alcohol consumption, prevalence of high risk drinking and harm: a sensitivity analysis

危険度の高い飲酒の割合と害になる割合からみた時の飲酒習慣の評価方法 (敏感度からの解析)

執筆者

Jurgen Rehm, Thomas K Greenfield, Gordon Walsh, Xiaodi Xie, Lynda Robson and Eric Single

掲載誌 (番号又は発行年月日)

International Journal of Epidemiology 1999;28:219-224

キーワード

飲酒習慣、評価、危険度の高い飲酒、罹患率、死亡率、敏感度からの解析

要旨

背景

疫学的見知から標準的に飲酒習慣の評価を行った研究はない。今回、3種類の広く使用されている方法を比較して、罹患率や死亡率によって規定される危険度の高い飲酒や害について飲酒習慣の評価を検討してみる。

方法

調査対象はカナダの3,961名である。1990年から1994年の調査研究から行った。飲酒習慣は飲酒歴、一日の飲酒量をたずねた。

結果・まとめ

評価方法は危険度の高い飲酒や害の割合で評価することで段階的に行った。すべて異なったスケールであったが、概ね男性で純アルコールで一日60g以上、女性では純アルコールで一日40g以上が害のある飲酒量であることが分かった。また一週間に概ね5回以上の飲酒の機会があると害のある飲酒習慣であることが示され、飲酒量の機会を加味すると、一週間に3回以上が害のある習慣であると言えた。今後、より詳細な疫学的研究が必要であると思われる。